

道徳だより



テーマ：道徳科の授業びらきはキラキラ輝かせよう！！

令和5年12月
京都市立道徳教育研究会
広報部
(第9号)

♡年間最初の道徳科の授業びらきを大切にしたい♡

☆実践『みんなの心は○○○○○○』←○の中にどんな言葉が入るかな。

年間最初の道徳科の時間を子ども達は心待ちにしていることでしょう。これからどんな学習が始まるんだろうって。そこで、私は素直に子ども達によく聞きます。「道徳の時間ってどんなことを考える時間だと思う？」と。子ども達はいろいろと発表してくれます。

「友だちや家族のことを考える時間」 「自分のことを考える時間」

「人の気持ちについて考える時間」 「人権について考える時間」

「心を見がく時間」 などなど。一度、私たち指導者側も、立ち止まって考えてみるのも大切かもしれません。・・・子ども達の意見をしっかり

受け止めてから、「大きくまとめると人の気持ちや心について考える時間って意見が多かったね。」と。ところで「人の気持ちや心って見たことある人いるかな？」と問うと子ども達はう〜んと唸ります。すかさず「今日は先生が目に見えない心を持ってきました！」と言うと、「え〜〜！！」と子ども達は興味津々です。ただ「心そのものを持ってきたわけではなくて、この世にあるもの（目に見えるもの）で先生が一番心に似ているものを持ってきたよ」と言います。そして下のようなものを黒板に貼って「何だと思う？6文字だよ。」と問



います。子ども達は「ハンバーグ！」とか「石ころ」とか、いろいろなことを言ってくれます。そのたびに「そうそう、みんなの心はハンバーグやね。おいしいね。…なんでやねん！」とか言うと、子ども達は大笑です。この導入、私は20年以上授業してきましたが、うけなかったことはないですね（笑）その後、答えはなかなかでないので、一文字ず

つヒントを出して言葉を入れていきます。一文字ずつ入れる順番も決めています。2文字目のイが1番。5文字目のンが2番。3文字目のヤが3番目。その都度、子ども達は「ダイヤモンド」とか「うんこさん」とか言って、大笑です。過去20年で一番面白かったのは右の写真のヒントまで出したときに、「先生、分かりました！」と言った子をあてると、「みんなの心はいや〜ん」と言いました（笑）



「いやいや、最初の○と最後の○が空いてるやん。」というところには♡マークが入ります」って言いました（笑）。『みんなの心は♡イヤ〜ン♡』教室中、大笑です。翌年も翌年もこの話をする、みんな腹を抱えて大笑いです。もちろん今年も抱腹絶倒でした。



そろそろ、答えが出ます。

「みんなの心はダイヤモンド!」「正解!」でも、子ども達はなぜこれがダイヤモンドなのか、知りたくて知りたくて興味深々です。

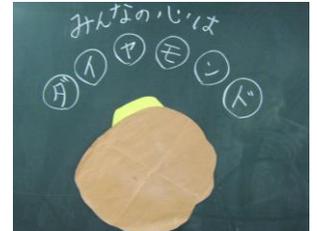
そこで、ゆっくりと落ち着いて説明します。

「ダイヤモンドは原石と言ってね、初めは石ころみたいなものなんだよ。それを磨くことで中から光り輝くキラキラのダイヤモンドが出てくるん

だよ。大切なことは、もともと光り輝く**ダイヤモンドが内にある**ということです。先生は人の心も同じだと思っています。みんなの心の中にも、**光り輝くよさ(道徳性)がもともとある**のです。誰にもあります。そのよさを自分、友達や家族、社会の人と磨き合うんだと思っています。それが道徳の時間です」と言いながら、黒板の紙を少しずつずらしていくと中から光り輝くダイヤモンドが見えてきます。子ども達の目は

キラキラです。子ども達は目を丸くして「うわあ!出てきたあ!」と。

続いて、子ども達に「ダイヤモンドはどうやって磨くと思う?」と問います。「ハンマーで砕く」「やすりで削る」など言いますが、



「ダイヤモンドは世界一、硬い石なのでハンマーでたたいても、ハンマーが壊れてしまいます。やすりで削ってもやすりが破れてしまいます。」と。実は「ダイヤモンドは……ダイヤモンドで磨くのです。世界一の石は世界一の石同士で本気でぶつかり合って、お互いが磨かれ、中からキラキラ輝くダイヤモンドが出るのです。人も同じ。友だちと本気で話し合って、思いをぶつけ合って、みんなの心からキラキラ輝くよさが出るのです。だから、道徳の時間は本気で考えてもらわないと困るんだよ。中途半端な心で考えたら、みんなの心がぐちゃちゃって壊れちゃうからね。」って毎回伝えています。子ども達は真剣に聴いています。最後に「じゃあ、先生のダイヤモンドはどれくらい輝いていると思いますか?」と聴くと、みんな、気を遣ってか(笑)、大人だから全部輝いてます!ってほとんどの子が言ってくれます。だけど、私はいつも、ほんの少しだけ、ダイヤモンドを輝かせます。そして子ども達にこう言います。「先生はこう考えています。大人でもね、常に磨き続けないと、ほこりがついたり汚れがついたりして、ダイヤモンドが隠れてしまうことがあるんだよ。これはね、一生磨き続けるものなんだと先生は思ってるよ。だから、先生も道徳の時間、みんなと本気で考えて、一緒に磨き合いたいと思うよ。1年間、よろしくね。」

上のような授業を考えた経緯は、クラスの子の中に「どうせ俺なんか」「自分なんていなくていい」と自分の存在を否定している子がいたからです。その子にも、ダイヤモンドの原石があるんだよということを感じてもらいたかったのが始まりです。それから、このダイヤモンドの原石を黒板の隅に貼っておくことで、ことあるたびにクラスの心のダイヤモンドが輝いていくようにします。そして、一年後には……綺麗なダイヤモンドが開花します😊